

第5期北見市障がい福祉計画の策定に関する意見交換会 議事録（要旨）

●日 時：平成29年8月30日(水) 午後2時00分～4時00分

●会 場：北見市総合福祉会館 2階研修室

●参加者： 【参加者】 20人(障がい者団体)

【策定委員】 2人

【事務局】 6人

意見交換会で出された地域の課題、障がい当事者や関係者の意見等

★参加者★

・サービス支援者は女性が多く、余暇活動でプールなど利用しても男女だと着替えが困る。母親が手伝おうにも更衣室が男女で別れており手伝えない。賃金を上げるなどして男性の支援員を増やしてほしい。また、自閉症を持った人たち向けの静かなイベントを企画してほしい。

★事務局★

・意見をいただけるのは貴重であり、そういった視点も大事にして積極的にイベントを企画していきたい。また親御さんも具体的にどんなイベントを企画してほしいか意見してほしい。

★参加者★

・プールに関しては火曜の休みの日にボランティアの人を付けて、障がい者団体が貸切でプールを開放している。そういった問題を考慮した更衣室がある。しかし平日はシャワー室がなかなか空かないので火曜日に利用した方が融通が利く。スポーツや余暇活動についてはスポーツ推進委員に障がいとして申し込んでいただければ無料で体育館を利用できる。またレクリエーションなどボランティアとスポーツ企画してくれる。

★参加者★

・推進項目5に「障がいに対する理解や配慮の促進」とあるが北見市の動きがあまり感じられない。北見市中心で促進を目指しているのか、事業所と連携して理解を広めていこうとしているのか。

★事務局★

・団体の活動はあくまで団体の動きであり、北見市はそれを補助する役割を担っている（広報誌で枠を確保し掲載するのなど）。振興局と話し合いパネル展など企画したりしているがもっと多くの人に理解を広めるために研修会を企画したりと考えている。実際に差別解消のフォーラムを端野で行っている。市民や事業所に広めていく。

★参加者★

・病院でバイクなど取り入れてほしい。病院で待っている際に電光掲示板を見てはいるもののやはり見逃してしまうときがある。バイクなら順番が着たら今までよりは気づける。

★事務局★

・事務局長に提案してみる。

★参加者★

・研修などあった際に移動手段で福祉バスを借りている。しかし福祉バスは年に一度しか利用できず困っている。他の団体では年に二回利用しているところもあるので、年に一度ではなく複数回の利用を可能にしてほしい。

★事務局★

・担当課が別になるので持ち帰り協議させてほしい。

★参加者★

・市職員に手話を覚えていただきたい。せめて挨拶程度はできるようにしてほしい。

★事務局★

・挨拶くらいは出来るようにしたい。

★参加者★

・男性ホームヘルパーの採用を増やしてほしい。女性だと高いところの作業ができずしてもらいたいことができない。女性、男性に関わらず脚立や椅子に乗ることができないことにより高いところの作業を頼めない。

★事務局★

・現状確かに女性が多い。市としても広報に掲載したりして声掛けをしたい。

★参加者★

・全盲の夫婦で妻は同行支援を利用できるのに夫が利用できないがなぜか。移動支援と同行支援は最高何時間の利用が可能か。

★事務局★

・視力障害者に対しての移動支援の時間は月 17 時間と同行援護は状態によるので上限は決まっていない。

★事務局★

・全盲のご夫婦の件については、個別に状況を確認するので後程担当へ連絡するよう
にしていきたい。

★参加者★

・バスの運転手がマスクをしており聞き取れない。

★事務局★

・バス会社へ周知させていただく。

★参加者★

・福祉会館に網戸を付けてほしい。

★事務局★

・福祉会館の網戸の取付については毎年予算要求している。しかし、実際には何年も
予算が割り当てられないので、社会福祉協議会の予算にある修繕費を使用し、そこ
から優先順位を定めて、順番に網戸を取り付けていきたい。

★参加者★

・まちきた大通りビルの庁舎内のことだが、常駐している手話通訳者のみでなく案内
人も手話をできる人を設置してほしい。手続きの手助けをしてほしい。

★事務局★

・案内人（フロアマネージャー）は手話が出来ないが、障がい福祉課に手話通訳者は
いるので案内人にそちらまで連れてってもらい、手続きのサポートを受けられるよ
うにしていきたい。

★参加者★

・民生委員は何をしているのか、何処にいるのか、わからない。

★事務局★

・まちきた大通りビル 5 階に民生委員事務局がある。民生委員がどこにいるのか何を
しているのか分かりづらいといったご意見があったこと伝えておく。

★参加者★

・点字ポスターを増やしてほしい

★事務局★

- ・貴重なご意見として反映したい。

★参加者★

- ・窓口で担当する職員は名乗ってほしい。自分は視覚障がい者なので誰が対応しているかわからないし、自分の名前は知られているのに相手はわからないのは不安になる。

★事務局★

- ・職員には名乗らせるようにする。

★参加者★

- ・他の市町村では、小中学校の頃から学校に障がい者を呼んで普段どう生活しているのか聞いたり、触れ合うといったことをしている。それによって社会に出たときに、障がい者に出会ったときどう対応するかがわかる。

★事務局★

- ・施設に行ったり、場合によっては来ていただいたりといった福祉教育は行っている。子ども同士の交流、特別支援学級との交流なども行っている。交流の促進といった意味合いでの貴重なご意見としていただく。

★参加者★

- ・北見は福祉の街を掲げているので、将来高齢になったときは生涯ゆったり暮らせるような聴覚障がい者専用の施設をつくってほしい。

★事務局★

- ・実態として北海道にも聴覚障がい者専用の施設は一か所しかなく、北見では難しいと思う。そういった施設は確かにいいとは思いますが、そもそも聴覚に限定せず、職員が聴覚障がい者に対して、きちんと対応できる総合的な施設であれば問題ないと考えている。

★参加者★

- ・新庁舎には障がい者専用のスペースはあるのか。

★事務局★

- ・ユニバーサルデザインで考えているので、障がい者専用ではないが障がいのある方でも利用できる設計となっている。